

		学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
中央地区	第一小学校	①人数がそれなりにいるので、クラス編成などバランスがとりやすいと思われる。 ④将来推計より人口減少が進行した場合でも規模の適正化が確保できる。 ⑥小学校から中学校への友達がずっと続くのは良いと思う。	①特に小学校は、建て替え時から推計人口が出ている 2059 年までに児童数が 90 人減となるため、それを見越した設計にする必要がある。 ②1 つの校舎で生活するのに、児童・生徒数が多すぎる ④将来推計より人口減少が進行しなかった場合、規模が大きすぎる可能性がある。 ④小中一貫校を 1 校とする場合、体育や部活動などの活動における場所の確保が困難となる。 ④学童保育所のニーズを考えると、校内に学童を確保できない可能性があるのではないかと？ 1 小では現状で校内にある学童が校外になると移動による交通事故の危険が増加する。 ④小中一貫教育としてメリットを謳うが、義務教育学校ではなく小中一貫校では建物だけが同一であり、校長も先生も別々の運営では「教育」面でメリットは小さい。 ⑤青梅大祭、市民運動会をともにやってきた日向和田を西部に変更することへの反発も予想される。 ⑤芝生の校庭という魅力や青梅駅の近くという一小の校舎・立地を残さないことへの反発も予想される。	⑥施設一体型小中一貫校にする為の充分な施設を創る場所を確保出来るのか。	①基本的に同じ小学校から全員同じ中学校に進学できるため安心感があり、同時に別の小学校からも合流するため、新鮮味もあり、少し世界も広がる。 ②公共交通が児童の登下校時間に利用できれば問題ない ③宮ノ平の児童は電車で行くことになるかと思う、どちらかというと東に行ってくれた方が親も仕事に行くときに駅で降ろしやすかったりすると思いました。 ④中央地区再編案 A と比較して小中学校を統合して 1 校としていため、コスト面でメリットがある。 ⑤適正だと思う	①特に小学校低学年には（徒歩および公共交通機関の使用のみを想定している場合）かなり遠いと思われる。 ④小学校児童は中学校と違い自転車通学は不可能です。このため、小学校 1 年生にとって裏宿や塩船からの通学は負担感が大きく保護者にとっても不安が大きい。これは、保護者から「新たな小 1 の壁」と言われる可能性がある。 ④青梅に住んで子育てをしたいと願う保護者にとって、安全安心な通学環境は重要と考えます。このため、小学校で遠距離通学が必要になる地域に住みたい、住み続けたいと考える市民や転入者が減少する可能性がある。 ④中央地区再編案 A と比較して、身体の発達が未成熟である小学生にとっての通学距離が遠い。 ④市の現在の計画では公共交通の利用が大前提となっています。都バス路線ではありますが、再編で想定する 30 年間の人口推計を考えると路線維持は不確定要素が大きく、バス運転手不足の現状からもスクールバス運行による代替も困難。 ④4 小の位置は東青梅駅から 500M、約 8 分強の距離があり、駅からの通学路はダンプカーを含む道路・交差点が存在しており、通学路の安全性において再編案 A と比較して低い。 ④裏宿から 4 小前を通る梅 7 7 甲路線は、現状で裏宿発 7 時台の運行がなく、6 時台と 8 時台となっているため通学利用は現実的でない。 ④北部・西部の再編案にもありますが、北部④西部から中央地域への登校を希望する場合、駅からの距離は中央地区再編案 A の 1 小と比較して遠く、中学生はともかく小学生にとって駅からの距離は大きなデメリット。バスについても上記のとおり通学時間帯のバスが無く現実的でない。 ④コスト以外のメリットは感じられない。 ⑥小学校低学年の通学が厳しいと思う。		①人数が多いため、全校行事等が盛り上がると思う。 ①その年に上手くいかなかったことの反省を翌年に反映できるチャンスは 6 年より 9 年ある方が増える可能性がある。 ①より年上の上級生と接点があることで学年が進むことへの憧れが膨らむ可能性がある。 ①小中両方に子供が在籍している場合、面談や運動会などが同日で行われるのであれば、保護者は楽だと思われる。 ③小・中学生の一貫教育ですが、こちらの考えも良いと思います。 ⑤小・中学校合同のイベントを行うことで幅広い年代と交流できる。 ⑤中学の部活の種類や様子を小学生の時から知ることができる（興味をもちやすい） ⑤教師同士の情報共有がしやすい(学習内容や個人の特性など) ⑤施設を共有することで維持管理しやすく、費用を抑えられる。	①9 年間同じ場所に通っていると新鮮味がない。 ①より年上の上級生と接点があり、より先が見える分、失望・不安が生じる可能性がある。 ①子供も保護者も、心機一転したい場合、難しい。 ②小学校と中学校が同じ校舎の中で過ごす上で生活時程や行事のことで、問題が出てくると思う。 ⑤施設を共有することで、一か所壊れるなど使用できなくなると代替する施設がなくなる	②一部一体的に設置されている校舎が望ましい。 ④義務教育学校ではなく施設一体型の小中一貫教育のメリットは大きくないと考えます。教育効果として一貫教育を目指すのであれば、一部の理系国立大学で大学院まで 6 年間一貫教育が進んでいるように、1 人の校長の元で先生も前期課程高学年から後期課程まで一貫通貫の教育が可能となる義務教育学校を目指すべきです。 よって、単なる小中一貫教育なのであれば「施設一体型」のメリットは小さく、「施設分離型」はデメリットにならないと考えます。
	第四小学校	③34 年後の中央地区施設一体型小中一貫校の児童数 497 人 18 学級、生徒数 274 人 12 学級で安定している。多少の変動があっても安定した見通したと考える。 ④2059 年以降を考えるとメリット大。	④四小の敷地に校舎建て替えて此れだけの生徒数や学級数が収容出来るのか？ 又、校庭の面積が確保出来るのか？ 体育館も一つで賄えるのか？		③現状の第四小の児童が全員中央地区施設一体型小中一貫校に通うことができる。また、中央地区施設一体型小中一貫校が中央地区のほぼ中央になること。 ④2059 年以降を考えると一番理想的。	④小学生には距離があり過ぎる。 スクールバス等が必要では？		③一部公共交通を使う児童・生徒への配慮を行う必要があるが、新しい教育の推進としての施設一体型での小中一貫教育が行われると期待している。		④案としては一番良いと思う。 デメリットも余りないのでは。

		学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
	吹上小学校	①小・中学校は、1学年の学級数、学校全体の学級数のどちらについても学校活動を実施する上で適正であるとする。 ③中央地区施設一体型小中一貫校となることで、小学校・中学校いずれも望ましい学校規模を維持できる点			①児童、生徒の通学負担については、中央地区再編案Bの再編によって設置される学校の位置からは負担の増加はほとんどないとする。 ③勝沼町、根ヶ布、東青梅地区から中央地区施設一体型小中一貫校への通学時間が短くなる点。	③裏宿町、塩船地区から通学距離が長くなる点	③施設一体型小中一貫校となるため、行事や交流が活発に行われ、めざす児童・生徒像を共有しやすい点			①小中一貫校に関しては、義務教育を通じて一貫した教育活動を実践することができることが大きなメリットである。小学校の6年間と中学校の3年間を分け隔てることなく継続した中での学習指導計画の立案や児童、生徒の人間関係をより豊かに醸成することが期待できる。また、中一ギャップを防ぐうえでも効果的である。小中一貫校による教育の効果をより発揮することができるのは、中央地区再編案A、2地区複合案の「施設分離型」よりも中央地区再編案B、3地区複合案Bの「施設一体型」であるとする。
	第一中学校	④学校の規模としては活気のある規模である ⑤学校規模はいい、小中の間、同じ仲間たちと学ぶことができる	①極端な集中化 ⑤入学したての小学1年生に対する通学が安全にできるかが不安		①計画案の中では一番コストが掛からない ①一小、一中校舎の有効活用が出来れば、新たな機会創出が期待できる ④中学生は自転車通学なども可能かと思う。 ⑤学校の配置は中間ぐらいで良いと思う	①第一支会の分断 ①裏宿の児童通学負担 ④小学生の負担がやや大きい。なるべくなら徒歩のみの通学が望ましい。 ⑤急な環境の変化（大人数）などの不安感		①建設費等の経費だけを考えれば、一番利のある案だと思います ④中一ギャップの解消や、5、6年生にとっては良いかもしれない。 ⑤9年間同じ学校に通うことが子供も落ち着いて学校生活ができる。	①“中一の壁”に対する施設一体型の効果が判断できないので考察が難しいが、7歳～15歳の児童・生徒に求められるファシリティーもおおのずと変わってくると思うので、一概に「施設一体型だから良い」とは言えないと思います。身もふたもない話になってしまっていますが、結局は教育委員会始め、教職員、地域コミュニティー等、子どもたちに関る「人」が重要なのだと思います。 ④規模が大きく、行事などはどうするのか？ ④小学生にとって(特に低学年)いろいろな面で安全面は大丈夫なのか？ ⑤同じ環境なので、いじめなどがあると不登校の子が増えるということがある。	
	吹上中学校	①とてもいい案だと思う ②小・中学校とも、再編成で適正規模になったので、これでよいと思います。 ③吹上中としては、中央地区施設一体型小中一貫校として新しい時代の推進ができる ⑤吹上小学校③と同様の意見			②中央地区再編案A・Bとも配置や通学負担についてよいと思います。 ③吹上中としては、現第四小の場所に中央地区施設一体型小中一貫の設置は、中央地のほぼ中間にあり望ましい。 ⑤吹上小学校③と同様の意見	②日向和田の児童・生徒、保護者及び地域の方々が長らく一小・一中に通学していたので、西中・五小に編入されることに抵抗があるかと思っています。 ③通学に関して、一部配慮する必要あり。 ④小学生が通学するには区域が広すぎる ⑤吹上小学校③と同様の意見		③吹上中の生徒が将来中央地区施設一体型小中一貫校で学ぶことができるのは、OECDが提唱するAIの時代にどう生きるかの学びを得ることができる。		①施設の面を考えると一体型の方がいいと思う ②小・中一貫教育の趣旨から、施設一体型が望ましいと考えます。 小中一貫校開校前に、一貫校についての説明を指導し、小中教員同士が、十分に話し合うことが大切であり、必要と考えます。 現在も小中連携を行っています が、「その延長上に一貫校がある」との理解ではないことを、教職員に認識させることが必要と考えます。